創業５２年。中国地方の屋内外サインのことならお任せ！自社一貫制作体制の株式会社日本彫刻工芸

大世渡通信（おおせどつうしん）

第15号【2020年10月】

〒734-0014 広島市南区宇品西2丁目6-27-6　Tel.082-250-8883　Fax.082-255-0006

■■この大世渡通信は私たちとご縁のあった方、ご縁をいただきたい方に差し上げている月一通信です■■

◆あの看板は、30年前に見た･･･◆

こんにちは！中国地方の屋内外サインを自社一貫制作体制で承っております、広島市南区、株式会社日本彫刻工芸、代表取締役の大世渡（おおせど）英和です。大世渡通信第１５号をお送りいたします。よろしくお願いいたします。

さて、私と妻はスノーボードが趣味で、子どもたちも一緒にやっているのですが、一昨年の冬、こんなことがありました。予約したスキー場に家族で向かったその道中、見覚えのある看板に遭遇したのです。「あっ、あのときの看板だ…」

今から30年ほど前、私が小学校高学年のときのある冬の日のこと。父から急に「スキー場へ行こう」と言われました。スキーをしたことのない私と妹を、父がスキー場へ連れて行ってくれることになったのです。

当日、スキー場へ向かっていた道中、目的地に近づくにつれ、そのスキー場の看板がいくつか立っているのを見かけました。すると、父がその看板を指差し、私たち兄妹に言ってきました。「この看板、うちの会社が作った」「この看板も、わしが作った」と。

父の顔が嬉しそうだったことだけは覚えているのですが、初めてのスキーだった私は、雪山のことで頭がいっぱい。とくに興味を持ったり、何か看板について思ったりすることはありませんでした。スキー場に着くと、そこには「〇〇スキー場」という名称看板もあり、ここでもまた父が「これも作ったんだ」と、嬉しそうに教えてくれました。

あの日から年月を経て、私は大学を卒業し、少ししてから今の会社に入りました。4年前にこの会社の代表になり、父と同じように看板を作る日々を送るようになりました。

そして、一昨年の冬、家族でスキー場に行くことになり、あるスキー場を予約。向かっていたその道中、ぱっと看板を見て思い出したのです。「あっ、あのときの看板だ…。ここって、小学生の頃に親父が連れて来てくれたスキー場だ」と。

30年前と同じ場所にある同じ看板、色あせてはいましたが、同じ状態で立っているのを見て、私は驚き、また、一人で感動。見る度にどんどん記憶が蘇り、気がつけば、今度は私が自分の息子に伝えていました。「この看板、おじいちゃんが作ったんだよ」と。そして、息子はかつての私と同じように、雪山のことで頭がいっぱいだったようで、きょとんとしていました。

その日、私は、父と私、そして、息子の3世代がひとつの看板で繋がっていくような不思議な気持ちになりました。これからも、人々の目印となり、分かりやすく伝わる看板、何年、何十年経っても記憶に残り続ける看板を作っていきたいと思っております。

■大世渡通信はいらないよという方は、大変お手数ですが 082-250-8883 までご連絡いただければと思います■

【発行者プロフィール】
■名前：大世渡　英和（おおせど　ひでかず）　■生年月日：1979 年 1 月 18 日　■血液型：O 型
■出身地：広島県呉市　■趣味：料理（食べ飲み歩きも好きです）、音楽（レコードを聴きます）、キャンプ、スノーボード　■家族構成：好奇心旺盛な私、高校時代から交際していた妻、誰に似たか秀才の息子（11 歳）、超わがまま娘（8 歳）

【発行元】株式会社日本彫刻工芸　本社工場　〒734-0014 広島市南区宇品西 2 丁目 6-27-6
Tel.082-250-8883 Fax.082-255-0006 Email：h-ohsedo@niccho.main.jp